

西播医療安全ニュース

2020年12月（第36号）発行西播医療安全委員会
兵庫県看護協会ホームページ掲載中

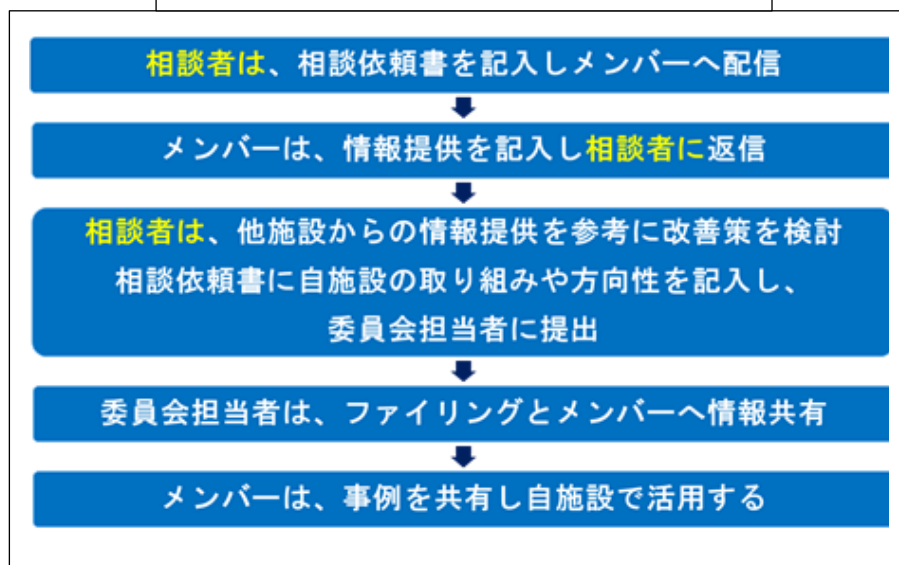
◆第22回日本医療マネジメント学会学術総会に参加して

新型コロナウイルス感染拡大のため開催延期されていましたが、10月6日・7日に、感染防止対策が取られた中で開催されました。当委員会は、活動の一つである「相談・システム改善活動」について、西播地域の医療安全管理者等が直面する問題や相談に、多施設から情報提供など様々な支援を受け、問題解決やシステム改善に繋げている取り組みを発表しましたので報告させていただきます。

2013年12月から2019年7月の間に、「相談・システム改善活動」への相談は46件でした。内容は、薬剤関連・転倒転落・記録や同意書・暴言暴力・患者離院対応など様々でした。その内の44件は問題解決やシステム改善などに繋がっていました。

事例を共有した後は、他施設がどのように活用しているのか、10施設にアンケート調査を実施しました。結果は、マニュアル見直しや作成した「8施設」・施設内で共有した「9施設」・類似事例に対応した「9施設」など、相談事例が他施設で活用されていることが分かりました。

相談・システム改善活動の流れ



相談事例

- ・食物アレルギー情報を得る中で、薬剤に関連する牛乳・大豆・卵アレルギーなど、どのように薬剤課と連携させていますか。
- ・口腔ケアや口腔内観察の際に、咬まれ防止の対策をどのようにされていますか。マニュアルはありますか。
- ・内服薬管理システムの変更を検討しています。一包化を提案していますが、具体的な管理方法をご教授ください。

今後もこの活動を継続するために困った時にすぐに相談できる環境を作り、参加施設を増やすこと（現在約15施設）やフィードバックの方法など検討が必要であると考えます。

◆ 当院での医療安全対策の取り組み紹介

モニターアラーム削減による静かな病棟への取り組み

心電図モニターのアラーム関連の医療事故報告は、過去にも新聞報道がありました。当院においてもモニター数も増加し、常にアラームが鳴っている病棟もあり、アラーム放置に危機感を感じていました。そこで、環境システムチームは、2018年度からアラーム対応活動を開始し、現在は臨床工学課がアラームラウンドも実施しています。

活動目的：患者状態の把握を確実に行う。

活動目標：アラーム時に適切に対応する。

現状調査：病棟の心電図モニターの記録を解析し、アラームについて把握しました。
今回は「電池交換」「電池切れ」アラームの対応について報告します。

内容/部署	A	B	C	D	E
SPO2プローブ確認	19	27	3	27	9
電池交換	18	5	7	46	11
電極確認	9	7		3	1
電池切れ	4	3	12	8	13
バイタルアラームなど		1	1	6	8
アラーム/使用数	50/224	44/267	23/82	90/661	42/285
アラーム指数(%)	22	16	28	13	14
※1人当たりに換算					

対策：心電図モニター周辺に電池を準備し、すぐに交換できるようにする。

担当者を決めて責任を持ち交換する。

充電電池を取り入れ、月水金に定期的に交換する。

評価：バイタルアラームは対応できていますが、テクニカルアラームはまだ鳴っているのが現状です。定期的な電池交換により、電池に関するアラームは減少傾向です。次年度に再調査することで、有効性を評価したいと思います。

アラーム時に適切に対応できるように、環境システムチームの活動は続きます。

弁護士との事例検討会

問題患者対応、院内暴力、転倒転落対応など、医療安全管理上の問題点に対し法的立場から指導を受けながら、話し合いをしています。自施設の困難事例の解決や、他施設の事例からの学びもたくさんあります。

参加希望の方、相談したい方は、事務局までご連絡ください。

第3火曜日 16時30分～18時00分 姫路商工会議所（参加無料）

発行元：兵庫県看護協会西播支部 医療安全委員会

事務局：公立神崎総合病院 井奥雅子

電話：0790-32-1331 FAX：0790-32-2176

e-mail：m-ioku@kanzaki-hp.jp